

国立婦人教育会館

ISSN 0911-6621



ヌエックニュース

National Women's Education Centre News—第84号

平成11年1月15日



「習い事初め」

も く じ

巻頭言

「父親をすることの意味」

慶應義塾大学文学部人間関係学科教授

渡邊 秀樹 氏 2

報告

- ・家庭・地域で担う子育てセミナー 3
- ・フォーラム家庭教育 3
- ・ヌエック国際フォーラム 4
- ・社会教育実習生の受入 4
- ・女性の生涯学習のための地域セミナー 5

予告・募集

- ・「公開講演会」 5
- ・「男女共同参画学習推進フォーラム」
共催機関募集！！ 5
- 情報ネットワーク 6
- 調査研究 7
- ボランティアコーナー 7
- V n e t からのお知らせ 7
- か・い・ら・ん・ば・ん 8



プロフィール

わたなべ・ひでき

現職：慶應義塾大学文学部教授

略歴：1948年生まれ 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 東京大学文学部助手、電気通信大学助教授を経て、現職

専門分野：家族社会学、教育社会学
家族と子どもの社会化、育児社会論などを中心的な研究テーマとしている。

最近の主な著書 『少し立ち止まって、男たち』（共著）東京女性財団、1997
『社会化とフェミニズム』『教育社会学研究』61集、日本教育社会学会、1997
『子どもの養育環境の複雑性と単純性』『教育と医学』45巻7号、1997

『家族の教育機能の変容と新しいかたち』『教育展望』7 - 8月号、1996

『父親の育児不安：シングルファザーの問題に焦点をあてて』『現代のエスプリ 子育て不安 / 子育て支援』no.342、1996

'Transformations of Family Norms: parent's expectations of their children's family life style', 『哲学』102号、慶應義塾大学三田哲学会、1998など。

父親をすることの意味

慶應義塾大学文学部人間関係学科教授 渡邊 秀樹 氏

父親論が盛んだ。父親が子育てに関わることが、子どもの発達にどのような影響をもたらすかという発達心理学的父親論から、父親をすることが可能な職場環境（father friendly work place）を用意しようという労働政策的な議論まで幅広い。

ここでは、父親をすることの意味を5つにまとめて提示したい。

まず第1は、子どもにとっての意味である。母親だけでなく、父親も関わることが、子どもの発達に良い影響をもたらすということである。子どもに関わるおとなが複数いるということは、危機対応としても必要なことであろう。

第2に、母親にとっての意味である。父親が関わることで、母親の子育てにゆとりをもたらす。互いに子育ての相談相手になる。子育てについてひとりで悩んで不安を増幅させることもなくなる。夫婦のあいだにコミュニケーションが生まれる。

第3は、父親自身にとっての意味である。仕事だけでなく、子どもに関わり家庭に関わるという生活スタイルの意義を見出すことになる。父親の生活に幅と厚味をもたらすということである。

ここまでの3つはよく言われていることであり、確認という程度のものである。それでは次の2つはどうだろうか。これらは、父親をするときに是非、留意してほしい点である。

すなわち第4に、父親をするというのは、家庭を閉ざしてわが子の父親をのみするのではないということである。家庭を社会に開き、地域の親たちと関わり、地域の子もたちの父親になってほしいということである。親たちが地域のネットワークのなかにしっかりと足場を持っていることは、子どもたちに安心感をもたらすだろう。地域の子もたちの顔がわかる大人として、子どもたちと笑顔をかわせる大人として、父親たちに登場してほしいのだ。

そして第5に、父親をすることで、夫婦の、あるいは男女の新しい関係の構築につなげたいということである。「お父さん、出番ですよ」ということで、父親が舞台の上で主役を演じ、母親が舞台裏で世話をするという伝統的な男女関係の再現強化にならないようにしたいということである。ときに母親が主役を演じることもあり、父親が脇役のことでもあるという、柔軟な男女の関係が子どもに伝わる必要があるのではなかろうか。言い換えれば、父親をすることのジェンダーチェックをしましょうということである。

9月26日(土)、27日(日)の2日間、地域社会で家庭教育支援に関わっている指導者を対象に「みんなで子育て 家庭を支える地域の教育力の向上をめざして」をテーマで「家庭・地域で担う子育てセミナー」を開催いたしました。教育委員会・公民館などの行政関係者、学校教育・PTA関係者、団体・グループ等の様々な立場の方々が一堂に集い、課題解決に向けての実践的研修を実施いたしました。



「みんなで子育て 地域を支え教育力の向上をめざして」をテーマに行われたセミナー

『家庭・地域で担う子育てセミナー』



熱心に討議するワークショップ

このセミナーでは、文部省清水家庭教育支援室長による「地域社会における家庭教育支援の在り方」の講義の外、子育てグループ・サークルの企画・運営、父親の家庭教育参加促進事業の企画・運営等の4つのワークショップと全体会を実施し、熱心なグループ討議意見交換が行われました。

9月26日(土)、第7回フォーラム家庭教育(文部省、埼玉県教育委員会と共催)が定員(600名)を大幅に上回る約720名の参加者を得て開催されました。

第1部では、パネリストに堀内正美氏(俳優)、山本健慈氏(和歌山大学教授)、奥山眞紀子氏(埼玉県小児科医療センター医長)、コーディネーターに黒田あゆみ氏(NHKアナウ



「見直そう、家庭の在り方・地域の在り方」のテーマで行われたフォーラム

『フォーラム家庭教育』



「新しい時代を拓く心を育てる」をテーマに行われた講演

ンサー)を迎えて「見直そう、家庭の在り方・地域の在り方」のテーマでそれぞれの立場から討議を行い、第二部では河合隼雄氏(国際日本文化研究センター所長)の講演「新しい時代を拓く心を育てる」が行われましたが、家庭教育に関する関心の高さが実感されるフォーラム家庭教育となりました。



11月18日水から20日木までの3日間、「男女共同参画社会の実現と生涯学習 家庭・学校・地域で学ぶ」をテーマとして、ヌエック国際フォーラムを開催しました。

このフォーラムは、21世紀に向けて、男女共同参画社会の実現を目指すため、家庭、学校、地域などにおける男女共同参画をめぐる諸問題の解決に資する学習・実践活動の現状と課題を、国際的な視野から討議し、女性のエンパワーメントを推進するとともに、国内外のネットワークの形成を図ることを目的として、毎年度開催しているものです。

今年度は、海外からの招聘専門家として、

『ヌエック国際フォーラム』

ユネスコ教育局基礎教育部長アイシャ・バー・ディアロ氏など4名、日本人専門家として、NHK解説委員永井多恵子氏、お茶の水女子大学生生活科学部教授牧野カツコ氏など10名を招き、18か国からの50名の外国人を含む500名の参加者を得て実施しました。

初日は基調講演とパネルディスカッション、第2日目は「家庭」「学校」「地域」の3つの分科会、第3日目は分科会報告と全体会を行いました。3日間を通じて、生涯にわたる男女共同参画を促進する学習のあり方について、熱心な意見交換が行われました。



社会教育実習生の受け入れ



国立婦人教育会館では11月15日から21日までの1週間、大正大学から元気な社会教育実習生3名を受け入れました。大学が行う社会教育主事養成のための社会教育演習の一環で今年度から受け入れを開始し、8月は事業課で、今回は情報交流課での実習となりました。

主催事業「ヌエック国際フォーラム」の準備・運営に関する実務の実践に加え、情報センターで図書・雑誌の整理業務等を実習しました。

i n 山口

今年度第2回「女性の生涯学習のための地域セミナー」が、10月24日(土)山口県婦人教育文化会館で開催されました。当日は、約300人の参加を得て「女と男で創るニューウェーブ」をテーマにエンパワーメントシアター、基調報告及びシンポジウムが実施され、シンポジウムでは「男女共同参画の実現をめざして」をテーマに、行政・企業・地域における男女共同参画社会実現へ向けてのかかわり方について、活発に討議が行われました。



『女性の生涯学習のための地域セミナー』



i n 千葉

第3回地域セミナーは、さわやかちば県民プラザで12月11日(金)~12日(土)泊2日のプログラムで開催されました。「ちばトーク&トーク 女と男の夢・未来 - 人間としてともに築くパートナーシップ -」のテーマのもと、第1日目はリレートークで介護、子育て、自立、暴力の分野からの問題提起、女性が抱える問題をとりあげた寸劇、2日目は、女性のエンパワーメントなど5つの分科会において、参加者による体験発表や積極的な意見交換が行われました。

予告・募集

「公開講演会」

日 時 2月13日(土) 13:30~15:30 会 場 国立婦人教育会館(ヌエック)講堂
テーマ 高齢期における豊かなライフスタイルの実現 対 象 成人男女600名

《対談》 講師 作家・評論家 沖藤 典子
ノンフィクション作家 加藤 仁

この講演会は、男女共同参画社会の形成をめざし、高齢期におけるライフスタイルの実現を図るため、高齢社会に向けた生涯学習の意識の向上に資することを目的として開催いたします。詳しくは事業課まで。

「男女共同参画学習推進フォーラム」共催機関募集！！

平成11年度新規事業として、「男女共同参画学習推進フォーラム」の開催を4か所で予定しています。総合テーマ『ともに豊かに生きるために、考えよう語り合おう』の下に、男女共同参画社会の形成をめざした地域の課題解決と、施設間のネットワークの形成をねらいとしたフォーラムを実施するものです。広域的な活動を行う公・私立の婦人会館・女性センター、生涯学習センター等の生涯学習関連施設からの応募をお待ちしております。締切りは平成11年2月28日。詳しくは、事業課まで。

W I N E T (ウィネット) が変わります！

W I N E T (Women's Information Network System) は、国立婦人教育会館が収集している女性及び家族に関する様々な情報のデータベース検索システムの愛称です。

今まではパソコン通信等によって全国の女性センター、大学等の機関に接続し、提供してきましたが、1月11日からは会館のホームページ上で情報検索ができるようになりました。従来はIDとパスワードが必要で、初心者には難しいコマンド方式の検索のみでしたが、インターネットにつながれたパソコンがあれば、調べたい言葉を入れる、あるいは画面上をクリックするだけの簡単検索で、知りたい情報を手に入れることができます。どうぞ会館ホームページ (<http://www.nwec.go.jp>) にアクセスしてご利用ください。今後は新しい情報を速やかに提供するとともに、データベースの充実に努めてまいります。

なお、現在提供しているデータベースは以下の通りです（今までホームページ上で提供していた家庭教育データベースはそのまま利用できます）。

平成10年12月現在

(1) 文献情報データベース（*印のデータベースは、横断検索もできます。）

- *・図書資料データベース（約29,000件）
- *・地方行政資料データベース（約15,500件）
- *・和雑誌記事データベース（約32,500件）
- *・新聞記事インデックスデータベース（約100,400件）
- ・所蔵雑誌一覧（和 2,332誌、洋 555誌）

(2) 調査情報データベース.....9,202件

（最新調査と過去の調査の横断検索もできます。）

- ・女性関連施設データベース 1997（1993,1990）
- ・高等教育機関における女性学関連科目データベース 1996（1993,1990）
- ・地方自治体における女性・家族関連講座（学習事例）データベース 1995（1992）
- ・国際交流団体データベース 1994

(3) 女性に関する統計データベース（エクセルの表で提供）.....572件

(4) 家庭教育データベース.....5,757件

文献情報画面

書誌検索(詳細)

条件指定画面

検索 検索条件のクリア

タイトル

著者名

出版者

キーワード

出版地

出版年

巻名

分類

コード

ISBN

出版コード

ID

資料ID

西暦版

配属場所

ファイル種別

言語コード

巻数番号

請求記号

部号

調査情報画面

施設データベース検索

簡略 詳細

検索条件の指定

検索対象データベース

施設名・愛称

施設所在地

設立年

種別

検索開始

クリア

検索結果の表示

検索結果の表示

調査研究

昨年11月、「都市化社会の進行と家庭・地域の教育機能に関する調査研究」(平成8～9年度)に関する研究成果報告書を作成いたしました。この調査研究では子どもや大人の居場所づくりには地域の教育力が重要であることが明らかになり、具体的方策が課題として提起されております。また昨年12月には「国立婦人教育会館研究紀要」第2号を刊行いたしました。第2号のテーマは「ジェンダーからみた家族」であり、「家族と暴力」「家族をめぐる法律、制度」等論文の他、投稿論文、ジェンダーの視点から統計をみる及び社会教育における女性学の内容と方法に関するシンポジウム、書評等国内外の女性学、家庭教育に関する最新の動向・情報を理解することができます。これらの資料は、都道府県等の公私立婦人会館・女性センター等に配付しました。

ボランティアコーナー

10月26日(木) 樹木医・会館ボランティアの掛川繁さんを講師として、館内の樹木について学ぶボランティア研修会が行われました。当日は大野館長はじめ職員と一緒に、散策しながらオオシマザクラ、榎、葛、萩、アメリカフウノキ等について、それぞれの性質や特徴に耳を傾けました。会館の庭園のすばらしい景観のポイントは2ヶ所あり、ゲート事務所から望む樹木と建物との調和が図られている景観及び自然の地形を利用した谷地になっている橋上からの展望で、良く工夫されているとのこと。また、研修棟に向かう



館内の樹木について熱心に研修するボランティア

う車道の両側のサトザクラのトンネル、日本家屋の響書院及び上段の池の周辺には往時の雑木林が少しながら残っており、20年以上経た今も健やかに育っているそうです。

全国から来館される方々は、ヌエックの施設の充実ぶり及び四季折々の風情を感じさせてくれる豊かな自然に満足されております。今後、この研修会の成果を生かし、皆様により親しんでいけるようボランティア活動により一層努めたいと思っております。

Vnetからのお知らせ

第2弾『ボランティア・コーディネーター養成講座』開催

“Vnet社会教育施設ボランティア交流会”では、昨年度に引き続き、文部省委嘱、国立婦人教育会館の協賛により標記講座を開催いたします。多彩な講師陣による講義や演習・ワークショップなどを企画しております。期日/平成11年2月11日～15日。

どうぞご参加を！詳しくは下記に連絡ください。

事務局〒350-0312埼玉県比企郡鳩山町鳩ヶ丘 2・11・9 大久保方

TEL/FAX 0492-96-7020

か・い・ら・ん・ば・ん

利用案内

休館日（平成11年2月～4月）
 11年2月1日（月）・15日（月）
 3月1日（月）・31日（水）
 4月5日（月）・19日（月）

【申し込み専用電話番号】

TEL：0493-62-6723
 FAX：0493-62-6720

1月11日から、新情報システムの稼働に伴い、24時間いつでもインターネットを利用して、会館ホームページより宿泊・研修等の利用施設の空き情報が、ご覧いただくことができることになりましたのでお知らせします。

（URL <http://www.nwec.go.jp/>）

ヌエックカレンダー

会館行事

2月13日 公開講演会
 17日 平成10年度第4回女性の生涯学習のための地域セミナー（福井県）
 23日 女性の教育問題担当官セミナー
 ～3月21日

主な利用団体

10月

2～4日 第28回関東ろうあ青年の集い
 8～12日 アラノン・ジャパン
 12～13日 埼玉県児童福祉課
 12～17日 JICAカウンターパート研修
 16～17日 全国木曽義仲ゆかりの会
 16～17日 国際交流基金日本語国際センター
 16～18日 日本キリスト教婦人矯風会
 23～25日 日本村落研究学会
 26～28日 日本キリスト教協議会
 26～31日 自治体女性管理者フォーラム
 31～11/3 第21回 日本スリーデーマーチ

11月

5～6日 埼玉県更生保護婦人連盟
 8日 嵐山音楽祭
 9～11日 国立学校等地区別国際交流担当職員研修
 11～13日 全国養蚕農業共同組合連合会
 14～15日 全埼玉私立幼稚園連合会
 15日 嵐山町「七つの祝い」
 20～21日 全国婦人教育懇話会
 20～21日 日本ホビー協会
 25～26日 埼玉大学主任研修
 25～26日 埼玉県保母会
 25～28日 グアテマラ地方教育行政セミナー
 26～28日 国際婦人教育振興会

12月

5～6日 埼玉県保育問題協議会
 13日 「芸百選」華の会
 19日 嵐山町「福祉寺子屋 98 第四回講座」

展示コーナー

「21世紀の女性と職場」



本年4月から改正「男女雇用機会均等法」が施行されることから、今回（1月～3月）の展示は「21世紀の女性と職場」をテーマとしております。

この均等法の10年を振り返り、男性の働き方や各国の状況もふまえ、次の世紀に向けた女性の働き方、生き方を考える図書を本館1階エントランスホールに展示中ですので是非ご覧ください。

<展示図書・資料>

「女性の能力発揮を目指して：雇用の分野における女性の現状と課題」「21世紀の女性と仕事：キャリアも子どもも」「女性の就職、それから：短大・大卒167人の生き方がし」等50冊。



今年も宜しくお願いします。職員一同。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
 皆様におかれましては、希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
 本年は男女共同参画社会の形成に向け、より一層充実した各種事業の展開と施設の運営に会館職員一同努めて参りたいと存じますので、皆様の変な御支援をよろしくお願いいたします。

ヌエックニュース第84号
 平成11年1月15日
 発行

編集発行 国立婦人教育会館
 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

0493-62-6711（代表）

FAX62-6722（庶務課）62-6720（事業課）62-6721（情報交流課）

ホームページ URL <http://www.nwec.go.jp/>

E-mail webmaster@nwec.go.jp